



# 「生きる逞しさ」に 出会える瞬間。



施設長 小谷 勝義


- ・デイサービスいそうの花
- ・グループホームむらおかの空

介護の仕事はネガティブなイメージが強いように思われがちですが、私は、実際は少し違うように思います。確かに介護の仕事は、頑張った成果がすぐには表れにくく、そこにはもしかすると忍耐を要するかもしれませんが、それを超えるほどの喜びや達成感を得ることができます。人相手の「介護の仕事」だからこそ得ることができる自分へのご褒美ではないでしょうか。

デイサービスでは、利用者の方が住み慣れた地域で、在宅生活を送ることができるよう、利用者の方やそのご家族を含めた支援を心掛けています。今後、認知症高齢者の増加が予想される中、当事業所では、新たな取り組みとして兵庫県独自の認知症機能訓練4DAS（フォーダス）を用いて、認知症であっても心身の機能維持を図るプログラムを実施しています。この取り組みが先例となって、多くの実践へと広がることを目指しています。

同施設内にあるグループホームは、認知症ケアを専門とするところです。その方の個性を大切にしながら、一人ひとりに寄り添ったケアに取り組んでいます。入居者の方と一緒に食事を作って食べたり、掃除や洗濯をしたり、地域の行事へ参加したり、そんな日常生活を支援するなかで、その人の人柄や生き方に触れ、「生きる逞しさ」に出会える瞬間もあります。人生の先輩である方々との関わりを通じて、自分自身の人間的な成長につながるような仕事を目指していきたいです。

感動の人生訓でした。  
徹底したプロ意識の高さ、  
社会的な責任感。



# 普通の自由な暮らしを目指し したいことが出来る喜びを。



施設長 橋本 佳久

- ・特別養護老人ホームこぶし園
- ・こぶし園短期入所生活介護施設
- ・こぶしの里訪問介護事業所
- ・こぶしの里通所介護事業所

特別養護老人ホームというのは、名称からして普通でない感じですよ。でも「特別な場所」ではない。利用者のしたいことを実現していく場所で、一人一人の住まいだと思っています。私たちには、目標とする3つの柱、基本理念があります。

- ・ノーマライゼーションの確立 --- 普通の暮らし = 私が私らしく、より自由に。
- ・人権の保障
- ・生きがいの創造

私自身も職員の募集を求人チラシで知って、軽い気持ちで就職しました。まったくの素人でした。当時、上のような理念は理想であって現実とはギャップがあるのでは、と思っていましたが、目標となる本気の先輩に何人も出会い衝撃を受けました。理想が現実になっているのです。

介護は、まず利用者から「ありがとう」と感謝されてやりがいが生れます。次に、役に立つことをもつとしたい、と使命感が出てきて、色々と出来ることで達成感に変わっていきます。やりがいという樹の幹が徐々に太くなり、必ず得るものがありますね。「人のために」とか「してあげている」という思いがあると、自分自身が面白くないと思います。「ありがとう」の意味を知っている人間は、「してあげている」なんて気持ちにはならないです。人のため、ではいつか行き詰まります。目的は「自分のため」。目的を果たす手段として「人のため」に尽くす。だから自分の仕事の達成感のために、「させてもらっている」のです。

利用者への暴力などが社会問題になっています。根が深くきれいごとでは解決しません。そもそも人の心の中には「悪」がいるんですよ。その本質を認めたほうがいい。実際に手は出なくても、なぜ暴力を振るいたい状況になるか、そんな時にどうすればいいか、本質を認めた上で解決に向けた方法を皆で話し合える仲間でありたいです。





## 生涯発達できる、人の可能性を信じている。 サポートとは人を後ろから支えること



施設長 山根 直美

・特別養護老人ホームむらおかこぶし園  
・むらおかこぶし園短期入所生活介護施設



当施設では、スタッフの勤務体制や業務を常に見直し、誰にとっても働きやすい職場を目指しています。入居者が、穏やかに落ち着いて暮らせる住まいのあるためには、職員がまず元気で働けるということが大切です。時間帯によっては忙しい時があるので、それに合わせて勤務シフトを組み休憩時間を調整していきます。パートさんも、個々の事情に合わせた時間帯でシフトを組み、働きやすいように考えています。1階の広々とした地域交流スペースでは、クラブ活動や行事などを通じ、多くの地域の方々と交流を図っており、入居者にとって良い刺激になっています。

仕事をする上で、心得なければならないのは「本当の気持ちを理解する」ということです。例えば、入居者が怒っておられるのはなぜかと考える時、自分の気持ちをぶつける場所がないからだ気づきます。様々な事情で、自分の意思とは別に入居した方もおられます。今までは出来ていたことが出来なくなった自分がいる、という現実。歯がゆい辛い自分の気持ちが怒りとなって現れる。今の自分を受け入れるには、時間がかかります。そんな入居者の思いを親身になって聴く時には、温かい心とクールな頭が必要といわれます。しっかりと思いに寄り添いつつ、それを抱え込まず客観的にどうすればいいか考える。福祉の専門性の一つといえます。

人は「生涯発達」できます。「高齢だから、病気だから仕方がない」と決めつけないで、その人の持っておられる力や強さを十分に発揮できるようサポートしたいと思います。それは、前から引っ張るのではなく、自ら「もう一度やってみようか」という気持ちになっていただけるよう、後ろから支えたり傍らで見守るということです。

しっかりとした素晴らしい理念のある先輩から  
介護を通して人生哲学にまで及ぶ深いお話しに  
私はすっかり引き込まれました。



## 人が生きる、ということに携わる仕事。

特別養護老人ホームという施設ですが、その方の生きる場所であると考えています。今までその方が歩んできた生活が、ここでも続けられるようにお手伝いできればと思っています。

悲しいときもありますが、なおさら「今、この瞬間」を大切に感じ、人が生きていく、ということに寄り添う仕事だと感じます。

自分でご飯を食べる、友人と会話をする、それは日々の当たり前の姿ですが、懸命に生きていく力強い生き様に見え、私たちが利用者のみならずから力をもらっています。

私たちが励まされ、その人と喜びを共有できる仕事です。



生活相談員 小林 昭則

・特別養護老人ホームしいの木荘



## 遊びながらの機能訓練なら、楽しい。

デイサービス事業所では、曜日ごとに利用者の顔ぶれも変わり、私は、毎日新鮮な気持ちで仕事に向かいます。利用者の方を知ることは、朝お迎えの時、玄関での挨拶から始まります。何度が接していくうちに「おはようございます。」の表情や声でその方の体調や気分が見えてきます。小さな変化を見逃さないよう常に細心の注意を払います。

私たちは、「笑顔のキャッチボール」をスローガンに仕事をしています。レクリエーション活動では、運動や趣味の創作など、遊び感覚で自然と機能訓練に繋がります。利用者の方の趣味、特技を活かせるようなプログラムを組むことで、その方の生きがいに繋がります。また、行事では、香美町の季節感を大切にしています。これらの活動を通じて、利用者の方々と我々スタッフは、自然と笑顔になります。笑顔のキャッチボールです。

私たちの仕事は対人援助であり、冷静で気持ちにゆとりがなければ適切な支援はできません。相手の気持ちに寄り添いながら、自分自身の気持ちをコントロールしていくことも大切です。何でも相談し合える素敵な仲間と一緒に、お世話させていただける感謝の気持ちを忘れず仕事をしたいと思えます。



管理者 中村 昌夫

村岡通所介護事業所

